

## RESEARCH HIGHLIGHTS

## Stray genes

## “のら”が教える“わんこ”の起源

Nature Vol.460(782)/13 August 2009  
 Proc. Natl Acad. Sci. USA doi:10.1073/pnas.0902129106 (2009)

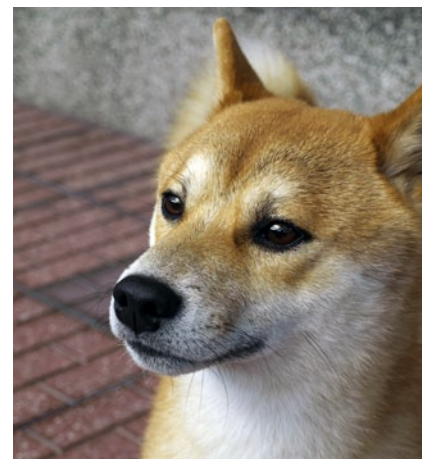
人間の近くで暮らす野良犬では、その土地固有の犬の遺伝子と外部から持ち込まれた遺伝子が複雑に混じり合っている。こうした半野生の犬の遺伝子分析から、人間の最もよき友人である犬の起源が明らかになるかもしれない。

米国のコーネル大学（ニューヨーク州イサカ）の Adam Boyko らは、アフリカの 7 地域の村で暮らす 318 頭の野良犬から、ミトコンドリア DNA と細胞核 DNA を採集・分析し、それをプエルトリコの町に住む野良犬、米国の雑種犬、いわゆる血統書付きの 126 犬種と比較した。もう少し詳しくいうと、アフ

リカ 7 地域の野良犬の遺伝子が、その土地固有の集団がもっていた遺伝子と、欧州などで品種改良された犬たちを祖先にもつ犬の遺伝子とが、どの程度混じっているかを決定した。

近年、犬の家畜化の起源は東アジアにある、という説が提案されている。Boyko らは、アフリカの野良犬のミトコンドリア DNA もまた、東アジア地域の犬と同様の大きな多様性をもっており、東アジア起源説の妥当性は詳しく検討されるべきだと述べている。

驚くべきことに、今回の分析結果から、これまでアフリカ起源とされて



きた犬種が、実はそうでないことも明らかになった。古代エジプトのファラオの墓に描かれた犬といわれる狩猟犬ファラオハウンドも、アフリカン・ライオンハウンドともよばれて猛獣狩りに使われたローデシアンリッジバックも、主要起源はアフリカではなかったのだ。（新庄直樹 訳）